

城端地域 会議録

件名	城端地域提言実現検討組織による第10回会議		
日時	令和元年12月19日(木) 19時～20時20分	場所	城端庁舎2階 202会議室
出席者	検討組織メンバー：13名、まちづくり推進係：2名		
内容	・新たな市民参加の取組の具体的な内容について		
概要	<p>◆前回の振り返りと今回の会議の進め方について(●…メンバー発言、→…事務局発言)</p> <p>→前回11月25日の会議では、松本教育長より、持続可能な教育の必要性として、学校や地域の中で子どもたちの思いやりの心を育む人づくりの重要性などについて講演していただいた。講演後の質疑の中で、子どもを対象とした人づくりの活動をしていくために、大人のプレイヤーを増やす方法がないだろうか、との質問に対して、教育長からは、子どもたちの放課後の2時間を、地域で育てる仕組みが必要だとのことのご意見だった。既に取組まれている地域づくり協議会もあるが、現在検討している複合交流施設の市民参加の取組の1つになるのではないかと考える。</p> <p>宿題として、複合交流施設の空間イメージのこだわりたい点なども考えていただいているが、その目的は、誰が、どんなことを、どういう方法で取組むのか、という具体的な議論を深めてもらうこと。地域の全ての子どもたちを地域で育てる、というように、子ども中心の取組を考えれば、もっとたくさんのアイデアが出てくるのではないかと。例えば、貧困家庭の子どもに温かい食事を提供する子ども食堂の取組に、地域交流の役割を加えて、子どもだけでなく一人暮らし高齢者も受け入れて、孤食防止に努める、といった取組は、提言の複合交流施設新設で目指す方向性の1つである「世代を越えて交流し助け合える、誰もが集える居場所づくり」にピッタリと当てはまると思う。そして、「その活動をするために、こんなキッチンが必要」という結び付け方が大事なのではないだろうか。</p> <p>今後、建築士の方にアドバイスをいただきながら議論を進めていきたいと話していたが、これまで最もご意見の多い図書館機能については、図書館協議会で示される方針との調整を図らなければならないが、現在の利用状況や最近の新しい図書館の間取りなども参考にしながらイメージ案を検討していただく予定なので、図書館のことは一先ず置いておいて、どんな賑わいを作っていくかを議論していただきたい。</p> <p>●それも大切なことだが、先に、市民センター、商工会、社会福祉協議会の3事務局が入った内容で青写真を見せてもらわないと、どれだけ賑わい機能について検討しろと言われても、イメージすら出来ない。</p> <p>→それら3つの事務所の必要な機能については、入居されることが決定すれば当然、詳細設計に入る際に、具体的な内容を相談して決めていくことになるので、その部分の面積がどうこうという議論は必要ないと考えている。</p> <p>●青写真を描いてから、それを住民説明会で提示するのではないのか？</p> <p>→住民説明会で提示するのはあくまでイメージ。ハコよりも中身の説明が重要。</p> <p>今回は、グループ討議をしていただき、その後、一人ずつご意見をいただきたい。先程申し上げた、地域の全ての子どもたちを地域で育てる、という子ども中心の考えで、誰が、どういうことを、どんな方法で取組むことが出来るかを考えていただきたい。</p> <p>●せっかく宿題をやってきたのだから、前回からの宿題の考えを共有する方向で話し合っても良いか？</p> <p>→前回の講演を受けて、まずは子どもたちのことを中心にお願いしたいが、宿題の事も含めて、新たな市民参加の取組の具体的な内容について討議していただければ結構。</p> <p>◆グループ討議「新たな市民参加の取組の具体的な内容について」</p> <p>◆新たな市民参加の取組の具体的な内容について意見交換 (●…メンバー発言、→…事務局発言)</p> <p>●限られたスペースを細かく区切ってしまうと、スペースに対する空いた時間が出来やすいし、その分ムダになってもったいない。同じスペースをいろんな団体が共有してどんな使い方をするのかは知恵の絞りどころ。場所、時間によるスペースの使い方を考える時に、使いやすい、フラットなものにしたいと思う。もっと大きな視点で考えていきたい。</p> <p>●24時間公衆トイレが、今検討している賑わいの目玉。トイレが1つのキーワード。また、高齢者ニーズに合わせた新しい公共交通体系を考えた時に、この施設がその起点となれば良い。</p> <p>石村氏案のレンタルスペースは、もう少し面積を増やすべきではないか。</p>		

- この施設での子どもの居場所を考えた時に、図書館機能に重点を置いて検討した方が良いと思う。高齢者などについては、社会福祉協議会などからもアイデアをもらうことも一考かと思う。今、自分からはアイデアは出せない。
- 最近新築されたコミュニティ施設などを視察して、自分のイメージをすっきりすることが出来たら、と思った。最新の設備や施設のコンセプトなどを参考に検討したい。
→現地視察は、昨年のまちづくり検討会議でも実施した。良い視察先があれば、ご提案したい。
- 昨年視察した、ぐるっぽふじとうはとても良かった。可能であれば、再度伺って、もっとじっくり見たい。
- 石村氏案を参考に検討した。その中にある、自由度の高いスペースで、内容の濃い使い方が出来ると良い。また、キッチンについては、営業許可が取れる設備にして、そのキッチンでの出店や販売などが出来ると良いと思う。更に、屋外での仕掛けも出来ると良い。例えば、軒下を広く取って、そこでマーケットや資源回収を行うなど、半分屋内、半分屋外のイメージ。その他、太陽光発電や蓄電など、環境に配慮した設備や南砺市産材による建築を希望する。
- 石村氏案を参考に検討した。まず、喫煙コーナーは外へ出すべき。また、赤ちゃんの授乳、オムツ交換スペースは必ず欲しい。育休中のママやパパのことを考えた設えが欲しい。隔離ではなく、パーテーションやローチェストなどの目隠しにより、お互いの存在が感じられるような設えが助け合いにつながると思う。城端児童館さくらっこや子育て支援センターさくらんぼ等、城端地域の既存施設の設えを参考にしながら、更にどんな工夫あれば使いやすくなるのかを考えていけたら良いと思う。
資源回収コーナーは、人の集うきっかけになると思う。例えば、お世話の当番でその人の生きがい創出にもつながればと考える。
- 共用スペースのたくさん取れる配置を考えた。誰もが、ふらっと立ち寄れる施設になってほしいと思っている。全てを壁で仕切って閉鎖的にするのではなく、例えば、賑わい機能部分はガラス張りで様子が見える、事務所部分は壁で様子が見えない、など建物にメリハリを付けることで、住民の興味を誘いたい。また、先ほどから意見のあった、屋根付きオープンスペースの設置には賛成である。
- 床面積は、1,300㎡は必要だろう。2階建てにする必要はないと考えているが、じょうはな座の会議室の有効活用を考慮すると、一部2階建てにして、じょうはな座へも連絡するようにすれば良いだろうか。また、図書館利用者が、その施設での滞在時間が一番長いと思われることから、やはり図書館機能についての熟考が必要かと思う。
24時間利用出来るトイレについては、城端は五箇山への入口なのだから重要地点になると思う。休憩時間が長く取れるような設えや仕掛けがあると良いと思う。
- 石村氏案にある、靴を脱いで寛げるスペースを増やすことで、少しでも滞在時間の増加につながればと思う。また、この部分の丸い形状は、若い世代が目につきやすいだろうと考慮した。レンタルスペースの面積が少ないのでは、とのご意見もあったが、それよりも、賑わいスペースの面積を増やした方が良いのではないかと思う。
追加修正した後でも床面積は1,500㎡未満であるので、もう少し面積を増やすことも可能ではないか。キッチンは、将来的には飲食店が入るようなイメージを持っている。
- 前回の松本教育長の意見から、放課後の自宅学習のサポートがこの施設で出来たら良いのではないかと考えた。城端地域として、周辺の学業の場が減少していく中で、通学しにくい子どもへの学習に対する配慮などが、例えば、通信教育などで対応出来れば良いと思った。
- 石村氏案を参考に検討した。本があふれているような印象が良かった。レンタルスペースの設えも良かった。ある程度の間仕切りは必要かもしれないが、見通しの良い空間が必要だと思う。また、キッチンは、飲食店の営業許可が取れるような設えが大切かと。例えば、お茶一杯を提供するにしても、有料であれば営業許可が必要。
市民の誰もが、あるいは、市民でなくても、気兼ねなく集える雰囲気を作ることが大事。「お茶飲みたいな」「誰かとお話したいな」等、ちょっと物足りない時に「そうだ！図書館へ行こう！あそこに行けば、何かあるだろう。」そんな施設になれば良いと思った。
- 提言にあるように、この施設には、情報が集まらなければならないし、人も集まらなければならない。情報も人も行き来し、且つ、交わるような仕掛けがあると良いと思う。例えば、ホワイトボードの壁面があって、情報を書き込んだり、チラシを貼ったりする。「〇〇を教えてほしい」「▲▲あるけど、もらってくれないか」等。そして、施設のコンシェルジュが、壁面の情報を撮影してSNSで情報発信する。この壁面に集まった情報が多方面に行き来し、その情報により人が行き来するようになれば良いと思った。
また、オープンスペースでは、ミニコンサートや作品展示が出来れば、と思った。
他にもご意見のあった、広めに取った軒下で、資源回収をしたり、オープンカフェとし

て使ったりと、汎用性のある使い方が出来れば良いと思った。そして、屋内、屋外が区別なく出入りしやすい設えにして、そこでも、ミニコンサートやちょっとしたイベント、野菜の直売、軽トラ市などが出来れば良いと思った。

- 以前に出ていた、美山荘の風呂の代替機能をこの施設に盛り込むことは、出来ないということに決まったのか？利用者が多く、また、風呂がなくなった後を心配する声をよく聞く。

→市の現状を考えれば、行政が新たな入浴施設を運営することは不可能。しかし、民間事業者による管理運営でやる、ということであれば、不可能ではないと思われる。

- 城端別院にある風呂を利用することも可能なのではないか。

→この会議として、これら複合交流施設についてのいろいろなご意見を、今後一つにまとめる必要がある。年度内に、住民説明会を開催し、その後、地域審議会で地域の合意形成を図るという流れは皆さんにもご理解いただいていると思っている。

建物のコンセプトとして、フラッと立ち寄れることも良いが、多くの人たちが共感し、協力して、参画する、という点についてもう少し意識して考えて欲しい。例えば、ボランティアで取組むにしても、誰が仕切るのか、あるいは、先程の通信教育の案については誰が行うのか、どうやって実践していくのかを具体的に考えて欲しい。

◆次回会議

日時…令和2年1月23日（木）午後7時から

場所…城端庁舎2階 202会議室

内容…複合交流施設における新たな市民参加の取組の具体的な内容の検討



城端地域提言実現検討組織

第10回 会議 R元.12.19(木)



◆ 前回からの振り返り ◆

Ex

子ども食堂



地域食堂

地域の
交流

孤食させない
高齢者との交流

・図書館 → 建築士の方にイメージ図出してもら

・社協、商工会、市民センター どれにも入れんなん。

・地域の子どもは 地域で育てるために

・どんなことをするか? ・誰が取組むか? 19:40 まで

・賑わい機能もどんな感じに盛りこむか?

グループ討議しましょう!

山瀬さん

ホワイトボードの壁面

いろんな情報
集まる(める)

↓
SNS発信

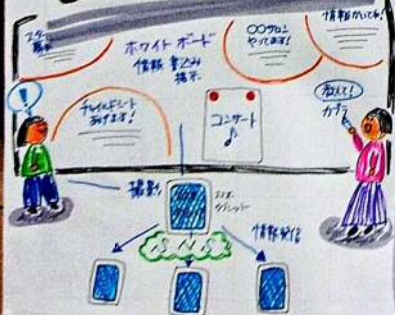
情報が往来
人

オープンスペースで展示 or ミニコンサート

広い軒下でオープンカフェetc

半分外、半分中

城端 12/19 (20)



清部さん ... 限られたスペース どのように共用できるか
世代、職業 etc 知恵の絞り合い
パーティションの仕切り具合は工夫(要)
もっと大きなアイデアで考えたい。

松本さん ... 外付けトイレはポイント
新交通体系も視野に入れた検討を

水上成さん ... 子どもたちを寄せることも重点の1つに
居場所 etc → 案が出るかも

水上和さん ... コミュニティセンターの取組事例
百聞は一見にしかずでイメージできるかと。
最近のもので

現地視察
できますよ!

グループなど、もっかいみたい

川田さん ... 柔軟な使い方の工夫

キッチン → 営業許可の取れる設備を

広い軒下 半分屋内、半分屋外

環境に配慮を! 南砺市産材で!

(ex 太陽光発電、蓄電)

次回会議

令和2年

1月23日(木)

長谷川さん ... 赤ちゃん連れママの授乳、オムツ換え
スペース

資源回収スペース

(目隠し(要) 隔離はX)

{ 育休ママとBabyの
すぐしやすい空間

→ 足を運ぶきっかけ、フラットと立寄れるよう

山崎さん

共用スペースのたくさん取れる配置を考えた。
ガラス張り + 見えない部分 (シェアオフィス)
↑ 見える部分
フランチと立寄れるスペース、見合いスペース
^{24h}トイレの位置に悩んでいる

中島さん

必要最低限の面積 → 平屋もあり！
じょうはな座との連絡による相互活用
中に入ると全体が見渡せる 設え
トイレは24h！公共トイレの意味ない

石村さん

畳スペース増
丸いデザインで若い人も入りやすく
レンタルスペースよりも Y スペースを増やしたい
キッチンと真ん中に → 将来飲食店入店を！

井波さん

地域全体の見合い = 子どもを囲い込む(要)
子どもたちの教育の (Ex) 宿題を見る
場の減少が心配

育藤さん

本があるという印象🌀 レンタルスペースの設え🌀
ある程度の間仕切りは必要かもしれないが、
見通しの良い空間があると良い。
キッチンは、営業許可が取れる程の設え！
誰もが気兼ねなく集える仕組み(要)

件名	城端地域提言実現検討組織による第9回会議		
日時	令和元年 11 月 25 日（月）19 時～21 時	場所	城端庁舎 2 階 202 会議室
出席者	検討組織メンバー：9 名、まちづくり推進係：2 名		
内容	・松本謙一教育長講演「持続可能な南砺市を目指して—SDGs と ESD—」、・質疑応答		
概要	<p>◆今回の講演の経緯について（提案者より）</p> <p>現在、城端地域では、複合交流施設の新設について検討している。ハードがあっても、ソフトがなければ、ただの箱である。中身をしっかりと検討して、必ず成功させたいと思っている。</p> <p>以前、福光地域で松本教育長の「SDGs と ESD」の講演を聴かれた方から、内容を伺って、我々の取組のヒントになるのではないかと思います。前回の会議で松本教育長の講演開催を提案させていただいた。この複合交流施設が目指すべき役割について、今日のご講演を伺って参考にしながら、メンバー全員の思いを一つにして進めていきたいと思う。</p> <p>◆講演要旨「持続可能な南砺市を目指して—SDGs と ESD—」松本謙一教育長</p> <p>1. はじめに</p> <p>今年 7 月に、南砺市が「SDGs 未来都市・自治体モデル事業」に採択された。昨年は富山市を含む 29 自治体が採択されたが、今年は、富山県と南砺市を含む 31 自治体が採択された。1 つの県から 2 つの自治体が採択されることは非常に名誉なこと。さらに、その中でも先導的な取組の 10 自治体がモデル事業として選定された。</p> <p>2. SDGs^{※1}って何？</p> <p>SDGs は「持続可能な開発目標」であり、2030 年を目指して、明るい未来を作るための 17 のゴールを設けている。一方、ESD^{※2}は「持続可能な開発のための教育」であり、以前は学校でのみ取組まれていたもので、SDGs の成立により企業や社会が学校に目を向けてくれるようになった。これは大変良いことである。</p> <p>2030 年までに取組むべき目標とされているが、後 10 年ほどしかない中で、とんでもなく無理なことをやろうとしているのではないかと考えてしまいがちだが、そこは、「意味のある」こととしてどのように取組んでいくかを考えていかなければならない。</p> <p>※1 SDGs=Sustainable Development Goals ※2 ESD=Education for Sustainable Development</p> <p>3. ESD って何？</p> <p>そこで、ESD が重要になってくる。ESD は担い手をつくるという考えである。私利私欲のない、周囲の大人や子ども、動物、植物など全てのことを考えられる人を育てること。学校では、自分を認める主体性や社会性を尊重するだけでなく、多様性を認め合うことも重視している。みんなのことを考えられる、あったかい地球を目指し、きときとな地球人を育てる。</p> <p>市内の学校では、福野小学校がユネスコスクールの認定を受けて ESD の取組を行っている。また、上平小学校でも「世界遺産教育」ということで ESD の取組を行っている。</p> <p>〔大人〕子どもを褒める →〔子ども〕褒められたことを実感 →〔子ども〕自信となる →〔子ども〕（大人になって、別の）子どもを褒める、この循環が増えるように。</p> <p>自分本位ではない、みんなのことを考えられる「人づくり」が SDGs の鍵と考えている。いかに、取組の過程の中で価値観を感じられる人間を育てるか、である。</p> <p>4. 子どもの中には「ESD」がいっぱい！（学校教育の現場から）</p> <p>（事例 1）お母さんが子どもの発言を少なからず認めてくれたことが、その子の自信につながった。ともすれば、親は自分の価値観を子どもに押し付けがち。子どもの発言に対して「どうして？」と聞ける心の余裕が大切。子どもの素直な気持ちを無くさないように、大人も関わりたい。</p> <p>（事例 2）地域の川が汚れていても、汚いと思いたくない。その思いが、周囲の子どもたちの心を動かし、川の清掃を継続して行うこととなった。論理ではなく、日々の生活の積み重ねが大切である。地域の中で育つことが重要で、地域に愛着を持つことにつながる。</p> <p>（事例 3）知識だけを教えようとする教師（大人）と、地域のおじいちゃんのいつもの言葉や笑顔を思い出して行動しようとする子どもと、どちらが素敵か？温かい目で受け止めて、つながっていけるような子どもを育てなければならない。</p>		

5. おわりに

子どもも大人も、どれだけ心が温かく、私利私欲にとらわれない人間を育てるか、一流の田舎を目指す鍵でもある。いかに多様な人たちを受け入れられる温かい人を育てるか。それは、明るい未来に向けて夢を描いていけるまちにつながる。子どもも大人も「人づくり」。絵に描くだけでなく、実行していきたい。

◆質疑応答（●…メンバー発言、◇…松本教育長発言、→…事務局発言）

●ESDについて、学校、あるいは地域での具体的な取組を教えてください。

◇学校では、まずは教師の教育。学校は塾ではないのだから、知識、理解のみを求めるのではダメ。子ども一人ひとりがどんな気持ちなのかを考える、子どもの立場に立った教育に取組まなければならない。

地域では、例えば、ふるさと教育と言うならば、これまで取組んできた内容も大事だが、対応してくださる方の生き様や語る姿そのものが教材となるような取組であってほしいと思う。

●SDGsを学べば学ぶほど、国や自治体が取組むものではなく、実際に生活している我々が一つひとつ取組むしかないと思うようになってきたが、今回選定されたのは、南砺市の小規模多機能自治の推進、エコビレッジ構想、地域包括ケアシステムが国の審査で高い評価を得て、この度のSDGsモデル事業採択となったもの。小規模多機能自治をSDGsの実践の場にしていくためにも、ESDを併せて分かり易く地域の人に伝えたい。諦めてしまっては終わり。

●先日開催された、公共施設再編計画の改訂方針検討委員会で、学校の数を減らしていく考えを出した。行政内部での検討材料を提供しただけにすぎないのに、会議の内容がマスコミに晒されるのはどうか。次回から非公開にすべきと考える。

◇その会議での危機感は真摯に受け止めた。今後、前向きで、市民の皆さんが安心できるようなビジョンを計画したいと考える。

●義務教育学校の整備の件について、2つの学校を1つにするのに、15億円という費用が本当に必要なのか？

◇増築と改築を合わせての費用であることをご理解いただきたい。

●我々はこの会議で、大人も子どもも、外国人も、障がい者も、様々な人が集って交流していくようなイメージの複合交流施設の整備について検討しているが、例えば、この施設でESDを目指した時に、子どもを対象とした人づくりをしようとするとなると非常に時間が足りない。なので、大人の地域のプレイヤーを増やしたいと考えているが、地域の大人に地域活動への参画を促すような影響を与えるために、良い方法がないだろうか？

◇放課後から親が帰宅するまでの間の2時間程度を、小規模多機能自治で、個性的に、高齢者から子どもまでの縦割りで遊べるような、何かそんな仕掛けがあると良い、と思っている。この2時間の地域の取組が、放課後児童の受け皿となるように、また、31地区全部で取組められれば非常に素晴らしいことと思う。

●北野地区は、随分前から、北野交流センターで放課後児童の受け入れを行っている。夏休み、冬休み、春休み、代休など、予め把握している小学校の休日に行っているが、あんなに規模の小さい北野地区ですら、交流センターから自宅が遠い児童は参加しない、という現状である。

◇この2時間が社会で育てる仕組みとなることが必要で、何とかしたい。地域で根ざした教育にするためには、小規模多機能自治毎に取組めるような内容にしなければならない。そして、小規模多機能自治の取組で何かしらの恩恵を感じた子どもでないと、次の担い手にはなれない。持続可能にならない。

●小学校でのカリキュラムが増えてきているし、塾などにも行っていて、子どもたちは忙しくしている。また、近所に年代の近い子どもがいないことで、子どもたちの遊び方も変化している。このように、子どもたち同士のつながりも希薄になっている中で、地域の活動に参加してほしいと言われても、参加しにくい状況にある。

◇そこを、仕方ないで済まらずに、何とかして取組みたい。

●城端地域の旧町部は麦屋祭があるので、子どもが地域の活動に参加する機会があるけれど、祭のない地域はどうしたら良いのか？

◇私は、城端小学校の全児童が麦屋祭でどこかの町内から出演すれば良いのでは、と思っている。

●町内の受入態勢が整っていない。

●参加したい子が参加するので良いのではないかと？強制する必要はないかと。

◇そうかもしれない。但し、チャンス을 全ての子どもに与えたい。何かしら地域の大人と関われるようなチャンスが子どもたちに平等に与えられたら、という夢を抱いている。

- 市長や教育長を始め、行政組織の中の、様々な立場の人たちによる同じ目線での議論がなされていないのではないか。今回の教育長の考えは、行政組織の中で共有されているのか。行政主催の会議に出席しても、他部署に関係するような話題が出ると、「帰って考えます」の返答を繰り返している。
行政改革の話にしても、一方的に言われっぱなし。もっと職員がアイデアを出すようにしないとイケない。ほとんどの部署が関係するはずなのに、全く横のつながりがないように思う。
- ◇今後、そのような事実を確認したタイミングで改善していけるよう努めたい。
- この会議での検討についても、行政の中からも、我々の検討に対するアイデアが出てほしい。全くアイデアが出てこないの、担当課が逃げているのではないかと思う。市のモデルとなるように、そして、10年後も20年後も住民の皆さんに愛されるような施設にしたい。
- 行政から与えられたものではなく、自分たち市民が関わって、しっかりと意見を出し合って、先を見越した良い施設にしていくことが大事だと思う。
- この地域の今後の地域づくりについて検討された結果、新しい施設が必要ということで提言されている。子どもの教育に関する意見も出されているが具体的な取組内容の検討が不十分に思う。引き続き、更なる検討をお願いしたい。

◆次回会議

日時…令和元年12月19日（木）午後7時から

場所…城端庁舎2階 202会議室

内容…①複合交流施設の空間イメージについての宿題の確認

②複合交流施設における新たな市民参加の取組の具体的な内容の検討

宿題…新たな市民参加の取組につながる複合交流施設の空間イメージとして、こだわりたい点とその内容を記入して、12月13日（金）までに提出

新たな市民参加の取組につながる複合交流施設の空間イメージ

ア. どの配置図を参考にしましたか？

石村厚志さん提供資料

イ. どんな点にこだわりましたか？

建物全体が図書館である。必要に応じて利用できるスペース。ある程度の間仕切りは必要かと思うが、見渡しのよい空間。
キッチンスペースは広めで、飲食店としての営業が許可される設え。
市民誰でもが気兼ねなく集える雰囲気。

ウ. こだわった理由はどんな事ですか？

例えば、
お茶したい時、話がしたい時、あいそんない時、「図書館」へ行こう。

新たな市民参加の取組につながる複合交流施設の空間イメージ

ア. どの配置図を参考にしましたか？

資料 2 例③

イ. どんな点にこだわりましたか？

図書館を大切にする。（ここでなら読みたい、調べることが出来るというところ）

ウ. こだわった理由はどんな事ですか？

この図面を決める前に、市民センター、商工会城端事務所、社会福祉協議会城端支所、城端図書館などが、どのくらいの機能、広さを望んでいるのか、聞く必要があると思う。専門家が図面を引いてからであると、再度、根本から検討が必要になってくると思うのだが、どうだろうか？

